



### 3. 活動内容

(1) 1年間の主な活動内容について記載願います。

#### 【環境】

##### ① 環境CQ（キャリア・クエスト）～総合的な学習の時間～

1年次に自然環境や社会環境との調和のとれた世界に貢献できる進路開拓意識を身につけ、2年次にはその成果を全国の「学生コンテスト」に応募し実践力をつける。3年次には実際の進学や就職準備で「ESD」での学びを実現していく。

＜今年度の学生コンテストの主な成果＞

国際塾懸賞論文・優秀賞（海外研修）／田舎力甲子園・佳作／おかやまNEXT100・優秀賞／エコ1グランプリ・中国大会／岡山英語エッセイコンテスト・優秀賞／岡山ボランティアアワード・大賞／農力向上コンテスト・大賞／学生未来プランコンテスト・最優秀賞

##### ② スイゲンゼニタナゴ飼育・繁殖

サイエンス部などを中心にして、絶滅危惧種である「スイゲンゼニタナゴ」の飼育・繁殖に努めており、今年度は長年の飼育研究成果が実り、年度当初の100匹から400匹まで繁殖することに成功した。

##### ③ 先進的取組地域視察 ～真庭バイオマス研修～

「バイオマスタウン」として町の行政・企業・住民が連動しながら地域づくりを行っている岡山県真庭市を夏休みに訪れ、環境問題と地域問題をリンクさせた社会形成の在り方を考えた。またユネスコスクールの真庭高校とのコラボ企画「防災アクティビティ」もプログラムに入れ、相互高校生同士の交流理解を深めていった。（希望者参加・約40名）

##### ④ 白石島ESDプログラム

高齢化が進む瀬戸内海の白石島を夏休みに訪れ、住民への聞き取り・講演会・交流などを通じ、豊かな自然を生かした今後の島の暮らし方を考えた。一泊二日の学習合宿の後半は、実際に自分たちでできる島への貢献とは何かを考え、各グループで白石島へのボランティア活動も行った。なお本企画は岡山県内のユネスコスクール相互乗り入れ企画と位置付けており、今年度のプログラムにはユネスコスクールの林野高校から多くの生徒が参加してくれた。（希望者参加・約40名）

#### 【地域】

##### ① やかげ学

学校設定科目「やかげ学」は、学校が位置する矢掛町と連携をして町内14施設で一年間、実際にそこでの仕事を継続的に手伝わせていただく校外実習型の授業である。各施設の担当生徒が一年間実習した成果は「やかげ学発表会」で様々な方に見ていただき、後輩もそれを見て先輩からの意志と手法を引き継いでいく。先輩・後輩と切れ目なく地域へ出ていき実習を重ねていくことで、自身が地域で果たせる役割、大人や先輩との連携、チームでの活動の重要性を理解し、「持続可能

な社会の形成者」としての基本的な部分を体感・修得していく。

## ② 各種地域行事サポート

地域の伝統文化や生活文化を次の世代に繋げていき、「持続可能な地域」を形成するために高校生として何ができるのかを考え実践。地域で行われる行事に積極的に参加して「地域」を知り、それを継承していこうとする姿勢を身につけた。

＜今年度の地域行事の主なサポート＞

みずき祭／行燈祭り／大名行列／干し柿祭り／流しびな祭り／井原線 DE 得得市／朝市／キッズフェスティバル／本陣マラソンなど

## ③ いかさ観光ツアー

昨年度、井笠広域観光協会主催の「いかさ観光プランコンテスト」において大賞を受賞した生徒らが中心となり、その受賞した「観光プラン」をベースにした「観光ツアー」を冬に実践。矢掛町、浅口市、井原市、笠岡市、里庄町の5つの市町を一泊二日でめぐるバスツアーを企画・運営した。企業や地域の方々との交渉、広告・受付会社やバス会社、宿泊施設との連携、役場観光課との打ち合わせなど、事前準備を全て自分たちで行い、また当日には約20名のお客様へのツアーガイドの中で良好な人間関係も築き上げ、高校生が地域と関わりながら外向きにそれらを紹介していくことの大きな可能性を示すことができた。

## ④ YKG60

昨年度、矢掛町60周年を機に発足した、町の小学生、中学生、高校生が連携して自分たちのやってみたいこと（＝まちづくり）を実行に移していく団体が、今年度も様々な場面で活動を行った。子どもたちで集まり、企画し、実施する。発起人である町のママさん（井辻さん）やこの活動に賛同してサポートして下さる数名の大人は、原則として子どもたちの実践している姿を「見守る」ことを心がけており、その点で実質的な「まとめ役」として活躍している高校生は、自分たちよりも年下の子たちと連携しながら「まちづくり」を行うことの難しさや楽しさを実感している。学校種の垣根を越えて「次世代」につなげるという意識を全体でも強く持つことができている。何よりもそれを「楽しむ」活動になっている。

### 【ユネスコスクール交流】

#### ① 岡山県ユネスコスクール高校実践交流会

11月3日に岡山大学を会場として、県内9校のユネスコスクール高校が集合し、お互いのESD活動の実践報告および各校への提言交流が行われた。この「実践交流会」は、昨年度岡山市で開かれた「ユネスコスクール世界会議・高校生フォーラム」の準備・実践の過程の中で、お互いの理解・親交が深まった9校同士が今後も互いに刺激し合いながら継続的に交流研修できるような機会を持っていきたいという想いの中から生まれてきたもので、今年度が「初」の試みとなっている。開催に当たっては岡山市や岡山大学からの全面的なバックアップが得られ、司会進行は岡山の大学生、全体のアドバイスや講評などは岡山市ESD推進部の方に協力いただいた。各校とも自分たちの高校が何をやっているのかを自身で知る良い機会になり、また他校の活動が刺激となって新たな取り組み意欲を持つことにもつながった。

## ② 岡山県ユネスコスクール高校 ESD 活動相互乗り入れ

岡山県内ユネスコスクール 9 校内では様々な ESD 活動が展開されているが、その優れた学習機会を他のユネスコスクール高校生にもオープンにし、相互乗り入れできる仕組みを作っていこう。昨年度の「世界会議」が終わった後そのような想いもあり、今年度からはこの 9 校内ではフェイスブックを活用し、「相互乗り入れ可能な ESD 活動」の相互連絡・相互募集が行われるようになった。本校でも「白石島 ESD プログラム」「真庭バイオマス研修」「やかげ学発表会」「YAKO アワード」などの ESD 活動を「相互乗り入れ」の行事と位置づけ、それぞれの活動に対してユネスコスクール生徒や教員が参加し、一緒に学び合う機会が持てた。

## ③ YAKO アワード

校内での様々な学習活動を生徒自身が全校生徒・教員の前でプレゼンし、それを全校生徒・教員が審査採点する。その結果「最も矢高らしい学習活動」を決定していく年度末の学習発表大会「YAKO アワード」は、昨年度から本校内で開催されている。今年度も環境活動、地域活動、部活動など、特色ある 14 チームの活動発表が行われ、生徒、教員、保護者、地域の方々、ユネスコスクール関係者など、多く関係者の間で活動のシェアリングが行われた。

(2) 活動時間について (下記から選択して下さい。)

- 通常の授業時間を使用 (総合的な学習の時間を含む)
- 時間外活動の時間を使用
- ユネスコクラブの活動として実施
- その他 ( )